

長崎県感染症発生動向調査速報

平成27年第35週 平成27年8月24日（月）から平成27年8月30日（日）

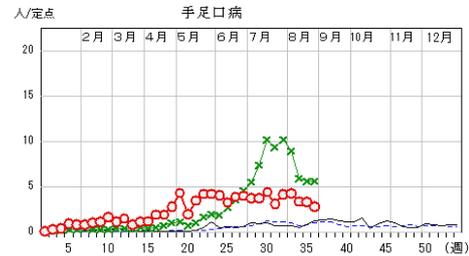
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

(1) 手足口病

第35週の報告数は123人で、前週より23人少なく、定点当たりの報告数は2.80であった。

年齢別では、1歳（53人）、2歳（27人）、1歳未満（18人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、五島保健所（6.25）、県央保健所（5.17）、県北保健所（4.67）が多かった。

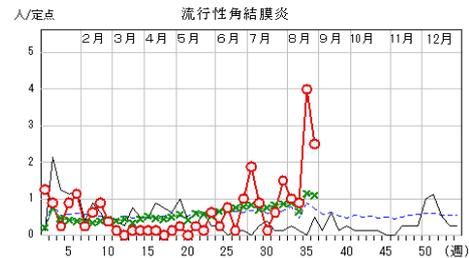


(2) 流行性角結膜炎

第35週の報告数は20人で、前週より12人少なく、定点当たりの報告数は2.50であった。

年齢別では、30～39歳（6人）、4歳（2人）、20～29歳（2人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、西彼保健所（5.00）、佐世保市保健所（4.00）、長崎市保健所（3.33）が多かった。

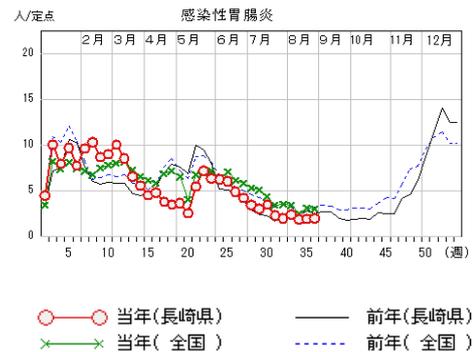


(3) 感染性胃腸炎

第35週の報告数は87人で、前週より3人多く、定点当たりの報告数は1.98であった。

年齢別では、1歳（16人）、2歳（9人）、3歳（8人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、上五島保健所（5.50）、県北保健所（4.67）、佐世保市保健所（3.33）が多かった。



☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第35週の報告数は、前週より23人減少して123人となり、定点当たりの報告数は2.80でした。県下全域から報告があがっており、五島地区6.25・県央地区5.17は警報レベル「5」を超えていますので注意が必要です。

本疾患は、初夏から夏場にかけて流行し、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は糞口感染が主体で、飛沫感染や水疱内容液からも感染します。急性期に最もウイルスの排泄量が多く、回復後も2週間から4週間程度は、便中にウイルスが排泄されますので、保護者は乳幼児に手洗いやうがいを励行させ、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては、手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発することもありますので、早目に医療機関を受診させましょう。

【流行性角結膜炎】

第35週の報告数は、前週より12人減少して20人となり、定点当たりの報告数は2.50でした。佐世保地区・長崎地区・西彼地区・県央地区から報告があがっており、西彼地区5.00は他の地区より報告数が多いので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患は、主にD群のアデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫・流涙・耳前リンパ節の腫脹を伴います。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下することがあります。さらに、新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を発症し、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすので注意が必要です。有効な薬剤はなく、基本的に対症療法となります。感染力が強いため、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をアルコール綿でよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第35週の報告数は、前週より3人増加して87人となり、定点当たりの報告数は1.98でした。壱岐地区以外の県下全域から報告があがっており、上五島地区5.50は他の地区より報告数が多いので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くを乳幼児が占めています。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早目に医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：蚊媒介感染症に関する蚊の生息調査を実施しています

本県では、デング熱などの蚊媒介感染症のまん延を未然に防ぐために、長崎市の平和公園や佐世保市の佐世保公園において蚊の生息調査を実施しています。本年度は、佐世保公園にて7月30日に、平和公園にて8月11日に第1回目調査を実施しました。

方法は人囮法（ひとおとりほう）を用いてヒトスジシマカを採取し、その後ウイルスの保有を調べる為の遺伝子検査を実施しました。その結果、採取したヒトスジシマカより、デング熱を引き起こすデングウイルス、およびチクングニア熱を引き起こすチクングニアウイルスの遺伝子は検出されませんでした。

まだしばらくは蚊の活動が活発な時期になりますので、虫よけ剤を使用する、肌の露出を避けるなど蚊に刺されないよう注意しましょう。

（参考）長崎県医療政策課 蚊の生息調査 [PDFファイル/53KB]
<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2015/08/1439795185.pdf>

（参考）長崎県医療政策課・環境保健研究センター 人囮法による蚊の密度調査方法 [PDFファイル/126KB]
<http://10.1.10.2/kohocms/wp-content/uploads/2015/08/1440052333.pdf>

